

## 犬山市総合戦略策定関係資料集

### <事務局まとめ>

この資料は、資料 3 - 2 『犬山市地方版まち・ひと・しごと総合戦略 策定関係資料集』中、「1. 人口等の現状分析」に記載されている内容のポイントをまとめたものです。

「2. 地域の特性の整理（愛知県内部における犬山市のポジション）」については、資料の 41 頁、42 頁にまとめがありますので、そちらをご覧ください。

#### (1) 人口・世帯の動向

##### <人口>

・平成 22（2010）年をピークに減少傾向。平成 31 年 3 月末は 74,007 人。

【P1 図表 1】

・年少人口割合（0～14 歳）の減少、生産年齢人口、老年人口割合の増加している。【P2 図表 2】

##### <世帯>

・世帯数は増加しているが、1 世帯当たりの世帯員数の減少している。これは、単身世帯、核家族世帯の増加と三世帯同居世帯の減少によるものと考えられる。【P7 図表 9】

#### (2) 出生・死亡・婚姻の状況

##### <出生>

・出生数は減少傾向。死亡数は増加傾向。【P8 図表 10】

・合計特殊出生率は、最新データがないが、愛知県下では低い水準であると推測される。【P8 図表 11、P9 図表 12】

・晩産化が進んでいる。【P12 図表 15、16】

##### <婚姻>

・江南保健所管内（犬山市、江南市、岩倉市、丹羽郡）の男性の初婚年齢は、国・愛知県よりもやや高い。女性は、国より低く、愛知県と同程度。【P13 図表 17】

・未婚率は上昇傾向。女性よりも男性の未婚率が高い。【P14 図表 18、19】

### (3) 転入・転出の状況

- ・平成 27 (2015) 年以降は転入超過。【P15 図表 20】【P 図表】
- ・男性の方が、女性よりも、転入・転出ともに多い。【P15 図表 21、P16 図表 22】
- ・転入元、転出先ともに上位には近隣市町が並ぶ。近隣市町との転出入の状況をみると、平成 30 (2018) 年は小牧市を除いて流出傾向となっている。【P16 図表 25】

### (4) 年齢別の人口移動

- ・近年 (平成 22 (2010) 年→平成 27 (2015) 年) では、20-24 歳→25-29 歳、25-29 歳→30~34 歳の減少が多く。就職、結婚を機に転出する人が多いと考えられる。また、最近では、増加・減少の幅が小さくなる傾向がある。【P19 図表 28】
- ・0→1 歳の増加が多く見られ、出産を機に犬山市に転入する人が多いと考えられる。【P20 図表 29】

### (5) 産業構造等の状況

#### <産業構造>

- ・全体の事業所数は減少傾向。近年では、第 1 次産業、第 3 次産業が微増。全体の従業者数は、近年増加傾向。【P21 図表 30】

#### <農業>

- ・農業経営体数は減少、経営耕作面積は減少、農業産出額 (推計) は微増。【P21 図表 31、32】

#### <商業>

##### ①卸売業

- ・近隣市町 9 市 (犬山市、春日井市、江南市、小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町、各務原市、可児市) の中で、人口あたりの事業所数、従業者数ともに 5 位。従業員あたりの年間商品販売額は 7 位。【P22 図表 34】

##### ②小売業

- ・近隣市町 9 市の中で、人口あたりの事業所数は 7 位、従業者数と売場面積は 9 位。従業員あたりの年間商品販売額も 9 位。事業所数自体が少なく、事業所自体も小規模なものが多いと考えられる。【P23 図表 36】

#### <工業>

- ・事業所数は減少傾向だが、従業者数は増加傾向。製造品出荷額は、ふり幅が大きいもの、平成 23 (2015) 年以降はおよそ増加傾向。【P24 図表 37】

### <就業構造>

- ・本市で働く従業者（平成 27（2015）年）は、男性では「製造業」、「卸売業、小売業」、「運輸業、郵便業」、「建設業」の順に、女性では「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の順に多い。【P27 図表 40、P 28 図表 41、42】

### <女性の労働状態>

- ・30 年前と比較すると、M字カーブ（20 代後半から 30 代前半にかけて就業率が低くなること）が改善。40～50 代の労働力率も上昇。【P31 図表 46】
- ・20～24 歳を除くすべての年齢層で男性よりも労働力率が低い。また、男性に比べて非正規雇用（派遣・パート）率が高い。【P32 図表 48、49】

### <求人・雇用の状況>

- ・犬山公共職業安定所管内（犬山市、江南市、岩倉市、丹羽郡）では、近年、一般職業、パートタイム職業ともに新規求人数が新規求職申込件数を上回っている。【P33 図表 50、51】

## （6）通勤・通学動向

### <通勤>

- ・名古屋市、小牧市、大口町への流出が多く、扶桑町、江南市、一宮市からの流入が多い。【P35 図表 54～56】

### <通学>

- ・小牧市、大口町からは流入しているが、名古屋市を筆頭に流失している。【P35 図表 57～59】

## （7）滞在、流動人口等の状況

- ・観光客数は、近年およそ増加傾向。イベントと連動して 1 月（初詣〔成田山〕）と 4 月（犬山祭）、にピークがある。【P38 図表 62、63】
- ・2018 年の 14 時を見ると、平日よりも休日の滞在人口が多い。原因としては、平日は通勤・通学等で市外へ流出している、休日は観光で人口が流入している、のどちらか又は両方だと考えられる。【P38 図表 65】